

河 南 町

都市と農村を結ぶ交流ステーション

河南町農村活性化センター

～地場産野菜へのこだわり～



河南町農村活性化センター

はじめに

河南町は、大阪府の南東部、奈良県に接する葛城山地の西向斜面にあり、大阪市の中心部から約25km圏に位置しています。町東部一帯の山地が金剛生駒紀泉国定公園に指定され、多くの古墳・遺跡などの文化財があり、自然と歴史に恵まれたみどり豊かな文化のまちとして発展してきました。

気候は、瀬戸内式気候で温暖ではあるものの、やや内陸性の特徴を有していることもあり、古くから農業が盛んで、都市近郊の生鮮野菜生産地として大きな役割を果たしています。とりわけ、石川<sup>おせ</sup>早生(さといも)や茄子、きゅうり、イチジクといった特産物が有名で、観賞用樹木などの植木の生産地でもあります。

本町ではこのような環境を活かし、都市と農村の交流を進め、都市近郊農業を核とした農村の活性化を目的に、道の駅「かなん」を併設した河南町農村活性化センターを平成16年4月に開設しました。この農村活性化センターは、①地域の農林畜産物及び特産物などの提供、②農林畜産物を原料または材料として使用する物品の製造または加工、③都市との交流の場の提供などを行う施設として活用されています。

開設までの経過

～自主運営のふれあい朝市を通じて～

本町では、平成10年に府営事業として南河内こごせ地区中山間地域総合整備事業が採択されたことを受け、「こごせ地区活性化センター整備構想」の策定が進められましたが、この過程で、建設する活性化センターに道の駅を併設する構想が決定されました。

活性化センターの運営主体については、当初は任意団体として発足させ、準備委員会的な組織を立ち上げる方向で進められました。

具体的には、活性化センター整備構想の策定段階で、運営組織の立ち上げにあたり、町広報紙(平成13年8月号)を通じ「河南ブランドを全国へ!!」と直販参加者を募り、町内の農家を中心に76人の登録を得ました。そして、第1回準備総会で「(仮称)河南町活性化センター運営協議会」を設立し、準備委員として7名の委員を選出しました。さらに第2回準備総会において、活性化センターの完成までの間、自主運営で毎週日曜日に「ふれあい朝市」を開催し、新鮮な農産物や手作りの加工品を販売することで多品目生産や販売の経験を積んでいくことにしました。

また、朝市の開催を通じ、その中で起こりうる諸問題に対処できるように精査しながら、朝市の運営



道の駅「かなん」

方法等を定めた規程の制定にも取り組みました。

## 農事組合による運営

「ふれあい朝市」が徐々に地域に認知されるにつれ、府内各所からの来場者も増え、将来的な展望などから、運営基盤、組織強化が強く望まれ、農事組合法人の設立を目指すこととなり、活性化センターの開設と前後して平成16年4月に「農事組合法人かなん」を設立しました。平成15年の地方自治法の改正により、地方公共団体の公の施設の管理にかかる指定管理者制度が施行され、現在、この農事組合法人かなんが農村活性化センターの指定管理者として運営を行っています。

農事組合法人かなんは、消費者が望む安全、安心でおいしい新鮮な農産物や加工品の提供をサービスの基本としながら、意欲的な運営を行っており、①都市住民との交流を通じた、消費者への地域農産物や加工品の計画的な提供、②栽培技術や朝市運営の工夫を通じたサービスの質の向上、③地元のボランティア的な労働力の確保による施設管理コストの縮減や植栽管理、飾りつけ等のノウハウ活用など、様々な効果が期待されています。



ふれあい朝市

## 地場産野菜にこだわって

農事組合法人かなんでは、代表理事などを中心に施設の管理運営を行っています。土曜日、日曜日は屋外の朝市販売を中心に会員が交代制で従事しています。

また、地域の農産物や特産物の販売、地場産のな

にわ伝統野菜（毛馬きゅうり、勝間なんきん、天王寺かぶら、石川早生、田辺大根、金時人参）、果物、加工品（みそ、もち、ジャム、米粉パンなど）を販売するとともに、地場産品にこだわった菌茸類・植木、花苗・工芸品の販売、NPO法人里山倶楽部との共催イベントやふれあい朝市の開催などを行っています。さらに、南河内地域の13箇所の朝市・直売所で構成される「南河内地区直産ネット（み・な・さ・んネット）」を通じた販売品の確保を行うなど広く事業展開を図っています。

## 終わりに

河南町農村活性化センターは、町の農業振興施策の一つである産地直販体制の推進や特産加工品の開発を目的として開設された施設であり、その事業運営を農家の主体的な活動に委ねることで、町の施策実現を目指そうとするものです。道の駅かなんとの相乗効果で、開設2年半で約50万人の来客がありました。また、パーキングエリアで休憩する人たちから予想以上の好反響を得ており、販売員の確保や顧客の対応にとうれしい悲鳴を上げています。

しかしながら、品不足、少量多品目の農産物の出荷促進、端境期の品目の出荷拡大、新たな農産加工品の開発に取り組んでいく必要があるなど、まだまだ課題も多く、今後ともより一層消費者とふれあいながら、新鮮な農産物をできるだけたくさん提供できるよう、一歩一歩努力していくこととしています。

### 施設概要

名 称	河南町農村活性化センター		
所 在 地	河南町大字神山523番地の1		
電 話	0721-90-3911		
F A X	0721-90-3912		
施設内容	1階	305㎡	展示直売所・情報ホール・加工室・貯蔵室・管理室等
	2階	104㎡	会議室・倉庫・製粉室等
時 間	月～金	午前9時～午後5時	
	土・日、祝日	午前8時30分～午後5時	
ふれあい朝市	土・日、祝日	午前8時30分～午後4時	